

## ヒラド系ツツジの鉢物化に関する試験

### 第3報 日長処理に関する試験

吉田俊一・\*後藤利幸 (大分県温泉熱利用農業研究所・\*大分県営農指導課)

YOSHIDA, S. and T. GOTO: Studies on the Production of the Pot Plant of Hirado-Azaleas (*R. mucronatum* G. DON).

#### 3. Effects of Some Day-Length Treatments to Flower-Bud Formation and Forcing

ヒラド系ツツジの鉢物栽培において、花芽分化期の日長が花芽着生と促成に及ぼす効果について検討したのでその結果を報告する。

#### 材料及び方法

供試品種は正之進を用い、1978年6月にミスト環境下で赤土に挿し木した。穂木は、新梢の先端より長さ5cmを採り、葉数を7~8枚とした。

発根苗の移植は第1回目を10月に育苗箱へ行い、第2回目を翌年4月に4号素焼鉢へ行った。鉢用土は当所慣行の配合土(赤土3:鹿沼土3:ピート3:川砂1)を用いた。

摘心は合計3回行った。最終摘心はI区が4月26日、II区が6月25日に行い、地上部を10cmの高さで切りそろえた。

日長処理のため、1979年7月16日にI、II区とも鉢植えのツツジをガラス室へ搬入し、処理の打ち切りまで管理し、以後は戸外へ搬出し、低温に遭わせた。

短日区は8時間日長とし、17時から9時までの間シルパーポリでシェードした。長日区は23時から2時までの間、光中断を行った。光源は白熱電球100Wを2㎡当り1灯、高さは1.2m~1.5mとした。

処理開始日はI区が7月16日(長日区は7月18日)でII区は8月9日であった。処理打ち切り日はI区が8月25日で、II区が9月20日であった。したがって、処理期間はI区が38日(長日)~40日(短日)で、II区が42日間であった。

促成は加温ガラス室で行い、I、II区とも12月1日に入室した。促成温度は最低夜温を15℃~20℃とした。

供試株(鉢)数はI区当たり10株とした。

日長処理期間中の自然日長は、第1表のとおりであった。

第1表 処理期間中の自然日長(1979年)

処理期間	日 長	備 考
7月16日~8月25日	14時間9分~13時間7分	大分気象台の
8月9日~9月20日	13時間36分~12時間15分	資料より作成

#### 結果及び考察

第2表と第3表より、次のことが明らかになった。

1) 自然日長がまだ比較的長い時期である7月中旬以降40日間処理の短日区では開花枝数は、自然日長区とほとんど差がなかったが、長日区では減少した。

2) 自然日長がやや短くなる8月上旬以降42日間処理の短日区では、開花枝数及び小花数は自然日長区の半分に減少したが、長日区ではこれらは自然日長区とほとんど差がなかった。

第2表 I区(7月16日処理開始)の促成に及ぼす効果  
12月1日入室

日長処理	開花株	到 花	平 均	開 花	側枝数
	(鉢)数	日 数	開花日	枝 数	
	株	H	月 日	本	本
短 日	10	60.9 <sup>a</sup>	1.30	8.1 <sup>ab</sup>	11.9
長 日	10	70.5 <sup>c</sup>	2. 9	6.5 <sup>a</sup>	10.2
自然日長	10	64.7 <sup>b</sup>	2. 3	9.1 <sup>b</sup>	11.9
有 意 性	—	※※	—	※	NS

注) a, b, c: 同一項目中同一文字を含むものは、L. S. D. 5%水準で有意差なし

第3表 II区(8月9日処理開始)の促成に及ぼす効果  
12月1日入室

日長処理	開花株	到 花	平 均	開 花	側枝数
	(鉢)数	日 数	開花日	枝 数	
	株	H	月 日	本	本
短 日	8	65.3 <sup>a</sup>	2. 3	4.6 <sup>a</sup>	13.9
長 日	10	92.0 <sup>c</sup>	3. 1	8.6 <sup>b</sup>	13.2
自然日長	10	72.2 <sup>c</sup>	2.10	11.1 <sup>b</sup>	14.8
有 意 性	—	※※	—	※※	NS

3) したがって、これらの時期の日長処理では、短・長日にかかわらず開花枝数(花芽着生)の増加は期待できそうにないことが明らかになった。

4) 日長処理が促成の際の開花に及ぼす影響については、短日区では、自然日長区に比べて7月中旬処理開始で4日間、8月上旬処理開始で7日間、それぞれ早めることができた。長日区では、自然日長区に比べて7月中旬処理開始で6日間、8月上旬処理開始で20日間それぞれ遅れた。

5) 処理開始時による比較では、8月上旬処理開始の長日区は到花日数が7月中旬処理開始のそれより非常に長くなった。8月上旬処理開始の短日区は、開花枝数及び小花数が7月中旬処理開始のま程度に減少した。自然日長区の到花日数は、7月中旬処理開始の方が7日間短かったが、これは最終摘心時期の差によるものと推察される。